

堺市こころの健康センター所報

第 11 号

(平成28年度実績)

堺市こころの健康センター

はじめに

平成 28 年度の当センターにおける専門相談の合計件数は前年度から増加し、特に薬物専門相談の件数が平成 27 年度の 512 件から 935 件へと大幅に増加いたしました。相談者の依存及び乱用対象薬物は平成 26 年度の半数以上が危険ドラッグでしたが、平成 27 年度以降からは覚せい剤が多くを占めるようになりました。平成 28 年 6 月に施行された刑の一部執行猶予が始まったことや、薬物依存症相談、家族教室、心理教育プログラム SDY48 を開始したことなどの効果により、市民への周知が進んでいることによるものと考えております。

また、ひきこもり専門相談では相談件数について 4978 件と前年から 218 件増えました。全相談件数の 75% を占めているため、当センターのマンパワーを大きく割いておりピアサポーターの養成、当事者会や家族会の設立や支援が急務となっております。この取り組みについては、昨年度から引き続き臨床心理技術者が医学誌への投稿や学会発表を行うなど積極的に報告を行っているところで、画期的なグループワークの手法（SSG：サカイ式すべらないグループワーク）を用いることで、少人数の職員で効果的な支援を行えるようにするとともに、より多くの対象者の多様なニーズに応えられるように努めております。

精神医療審査会につきましては、平成 28 年度は医療保護入院の届け出件数が平成 27 年の 2700 件とほぼ同数の 2708 件となりました。審査日数については、目安とされる 30 日を超えていることから、さらなる努力を求められているところです。その審査の中で、平成 28 年度は医療保護入院者の定期病状報告において、退院命令が 2 件出されました。2 件の報告医師は異なっていたものの、同じ医療機関から出されたものであったため、精神医療審査会から医療機関の法律知識を疑問視する声が上がりました。病院実地指導などを通じて、医療機関の研修状況なども確認する必要性が感じられました。

統合型リゾート推進法（IR 法）を踏まえたギャンブル依存症対策や、新規事業である性暴力被害者カウンセリングの実施など、当センターに期待される役割はますます多様化しており、市民の皆様の期待に応えられるよう努力して参ります。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 29 年 6 月

堺市こころの健康センター
所長 木内 邦明

目次

はじめに	1
I 沿革	3
II 堺市こころの健康センターの概要	
1 施設	6
2 組織と職員数	8
III 事業概要と業務実績	
1 専門相談・診療事業	9
2 教育研修事業	16
3 普及啓発事業	20
4 技術支援事業	23
5 組織育成事業	26
6 精神医療審査会・自立支援医療（精神通院医療）及び 精神障害者保健福祉手帳の判定	27
7 調査研究事業	29

【略語注釈】

Dr＝医師、CP＝臨床心理技術者、PHN＝保健師、PSW＝精神保健福祉士

I 沿革

平成16年度

2月 美原町の合併 美原保健センター開設（精神保健福祉相談員1名を配置）

平成17年度

4月 健康部健康増進課内に、精神保健福祉業務政令指定都市移行準備担当（事務職主査1名）を配置

大阪府こころの健康総合センターへ精神保健福祉士1名、大阪府精神保健福祉課へ事務職1名を研修派遣（4月～12月）

庁内に「精神保健福祉業務政令指定都市準備検討会」を設置（月2回開催、12月末まで）

7月 健康部に、副理事（精神科医師）1名を配置

10月 健康部健康増進課に、心理職員2名を配置

第1回堺市精神保健福祉業務政令指定都市準備意見交換会（外部委員21名）

12月 第2回堺市精神保健福祉業務政令指定都市準備意見交換会（外部委員21名）

堺市こころの健康センター条例（条例第67号）及び堺市精神医療審査会条例（条例68号）の議決

2月 こころの健康センター開設準備担当に、精神保健指定医1名、精神保健福祉士2名、心理職2名を任命

3月 こころの健康センター改修工事（北支所5階）

平成18年度

4月 政令指定都市へ移行

こころの健康センター開設（北区役所5階 職員16名 電話相談員4名体制）

*精神保健指定医2、保健師2、精神保健福祉士4（うち非常勤1）、心理3（うち非常勤1）、看護師1（うち非常勤1）、事務4（うち短期臨時職員2）

ひきこもり専門相談、高機能広汎性発達障害専門相談を開始

精神医療審査会 2合議体を設置 専用電話の設置

9月 高機能広汎性発達障害家族教室を開始

10月 ひきこもり専門グループワークを開始

平成19年度

6月 高機能広汎性発達障害専門グループワークを開始

7月 高機能広汎性発達障害家族教室を開始

*発達障害者支援センター開設に伴い、3月末にて高機能広汎性発達障害専門相談、グループワーク、家族教室を終了

10月 ひきこもり家族教室を開始

平成20年度

4月 精神保健福祉士常勤1名を増員（職員17名体制）

10月 薬物依存症専門相談、自死遺族専門相談を開始

平成21年度

平成22年度

8月 薬物依存症家族教室の開催

1月 子ども青少年部局がひきこもり地域支援センター（児童期）の堺市ユースサポートセンター（子ども・若者総合相談センター）を開設

平成23年度

4月 保健師常勤1名、精神保健福祉士非常勤1名、心理非常勤1名を増員（職員20名体制）

5月 ひきこもり地域支援センター（成人期）を開設
ひきこもり相談専用電話の設置

12月 第1回ひきこもり市民講演会の開催

平成24年度

4月 健康福祉プラザの開設
こころの健康センター 北区役所から健康福祉プラザ3階へ移転
保健師常勤1名が減員（職員19名体制）

平成25年度

4月 医師常勤1名の減員 代替として医師非常勤2名の配置
看護師非常勤1名の代替に心理短期臨時職員1名を配置（職員18名体制）

7月 薬物依存症専門グループワークを開始

11月 ひきこもりサポーター養成講座（堺市ユース・ピアサポーター養成講座）の開催

1月 ひきこもりサポーター派遣事業の開始（ユース・ピアサポーター活動の開始）

平成26年度

4月 精神保健福祉士非常勤1名の増員（職員19名体制）
精神医療審査会 1合議体の増加（3合議体の体制）

平成27年度

4月 医師常勤1名の増員（代替の医師非常勤2名 配置終了）

保健師常勤1名の代替に、精神保健福祉士短期臨時職員1名の配置（職員20名体制）

11月 アルコール関連問題啓発週間 啓発パネル展示の開催

平成28年度

4月 精神保健福祉士常勤1名、保健師再任用1名の増員

事務職員1名の減員 代替に事務職短期臨時職員1名の配置（職員22名体制）

6月 薬物依存症治療・回復プログラム（SDY 48）の開始

11月 アルコール関連問題啓発週間におけるパネル展示及び市民向け講演会の開催

3月 性暴力被害者へのカウンセリング事業の実施

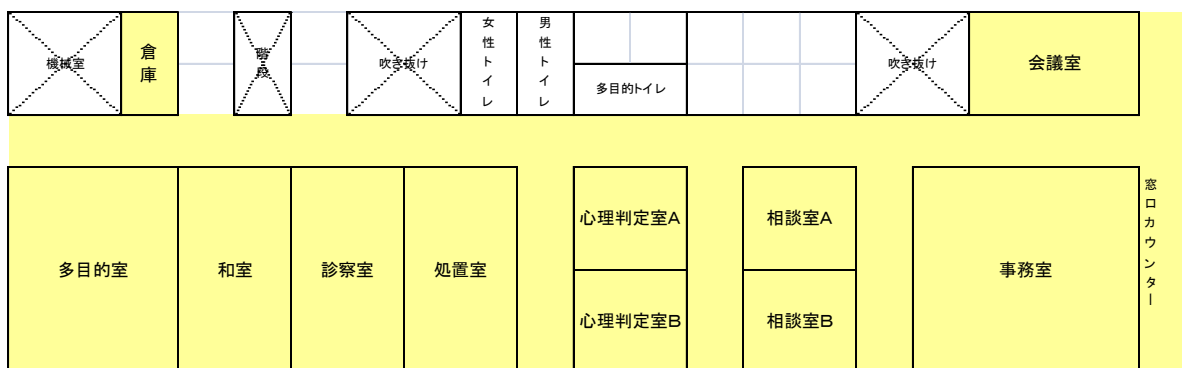
Ⅱ 堺市こころの健康センターの概要

1 施設

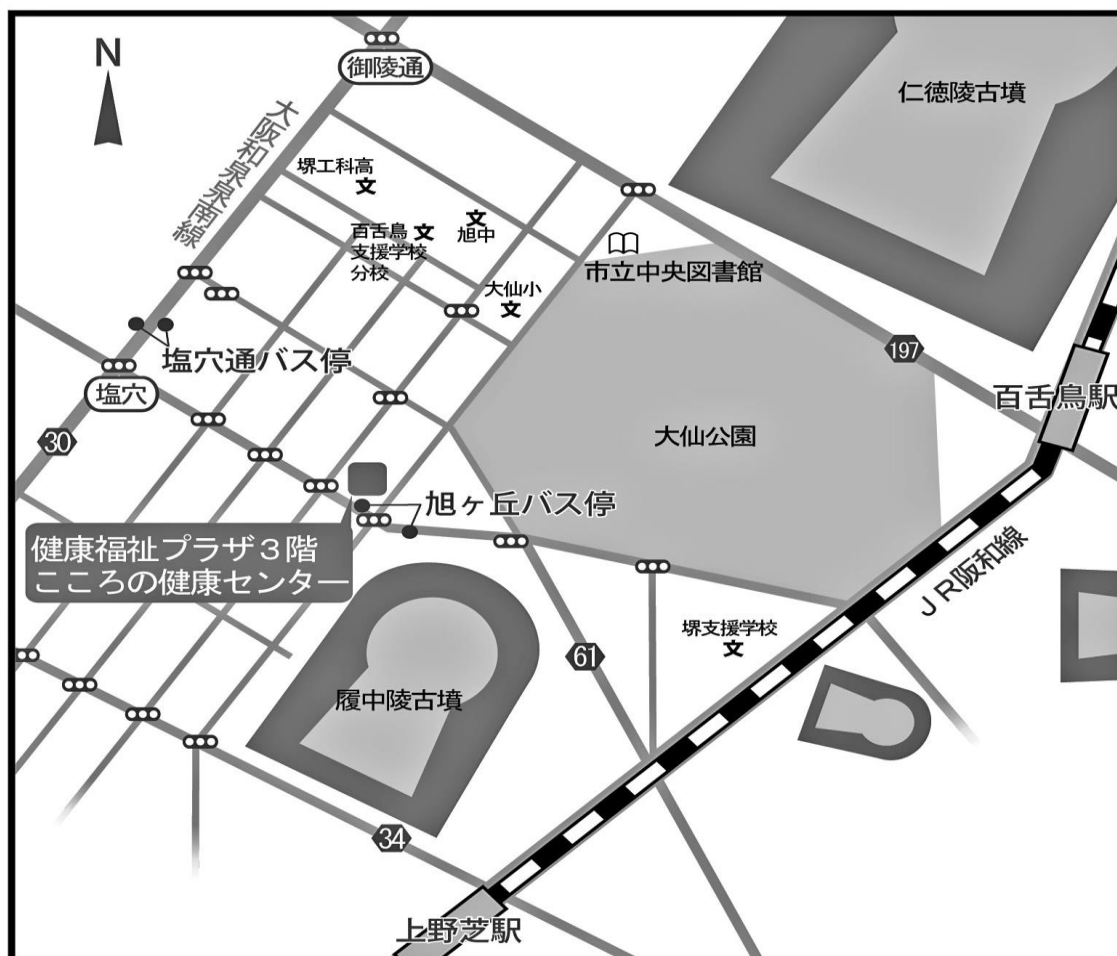
1-1 外観



1-2 平面図



1-3 所在地



〔住所〕 〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4丁3番1号 堺市立健康福祉プラザ3階

〔電話〕 072-245-9192 〔FAX〕 072-241-0005

072-243-5500（ころの電話相談）

072-241-0880（ひきこもり電話相談）

〔アクセス〕 JR 阪和線「百舌鳥」駅下車 西へ1.4km

JR 阪和線「上野芝」駅下車 北西へ1.3km

南海バス「堺東」駅より（泉ヶ丘駅行）乗車、「旭ヶ丘」バス停下車すぐ

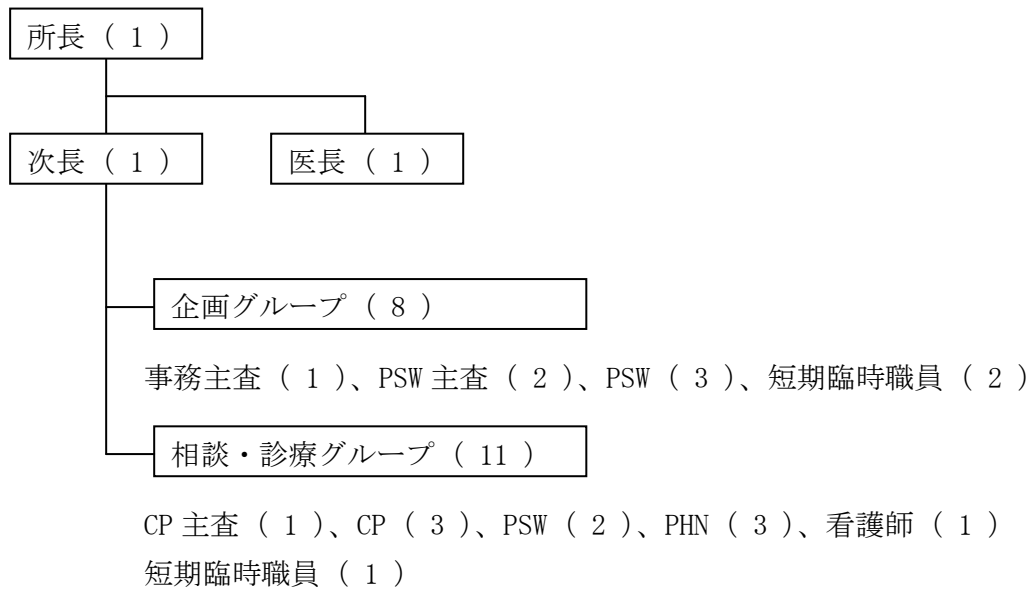
南海バス（西区役所前行など）乗車「塩穴通」バス停下車 南東へ500m

1-4 開設

開設年月日 平成18年4月1日

2 組織と職員数

2-1 組織（平成 28 年 4 月 1 日現在）



2-2 職種別職員数（平成 28 年 4 月 1 日現在）

	Dr	PSW	CP	PHN	看護師	事務職
所長	1					
次長		1				
医長	1					
企画		5 内非常勤職員 2				3 内短期臨時職員 2
相談・診療		2 内非常勤職員 1	4 内非常勤職員 2	3 内再任用 1	1 内非常勤職員 1	1 内短期臨時職員 1

電話相談員・・・12名（当番制）

非常勤嘱託 Dr・・・10名

Ⅲ 事業概要と業務実績

1 専門相談・診療事業

1-1 専門相談の概要

精神保健及び精神障害者の福祉に関する相談及び指導のうち、複雑又は困難な事例に対する相談業務を行った。(表 1-1)

(表 1-1) 専門相談 利用者数

内容	延べ件数	実数
ひきこもり	4,978	345
薬物依存症	935	98
自死遺族	131	27
その他	565	317
合計	6,609 件	787 人

1-2 ひきこもり (ひきこもり地域支援センター)

平成 23 年度に当センター内に設置された「ひきこもり地域支援センター (成人期)」の活動として、市民に対する講演会や、ホームページ・リーフレット等を使った啓発を行った。また、「ひきこもり相談電話」を設置し、利便性を高め、より広く市民からの相談に応じた。各関係機関のネットワークを構築し、支援体制の整備を行った。

さらに、平成 26 年度からは、ひきこもりサポーター養成・派遣事業として、ひきこもり経験のある当事者に対して、「ユース・ピアサポーター養成講座」を実施し、登録したサポーターを各種ひきこもり支援に活用した。

1) 相談支援及びグループワーク等

ひきこもり状態にある本人及びその家族や関係者に対して相談支援を行った。対象は、おおむね 15 歳以上で、自宅以外での生活の場が失われている状態にあり、あきらかな精神疾患の存在が認められない本人及び家族・関係者とした。電話、来所面接、家庭訪問、所外相談 (同行等)、手紙、メール等の方法により実施した。(表 1-2-1)

また、ひきこもり相談を利用している家族を対象に、ひきこもりに関する学びの場とする家族教室と、家族同士の交流の場としての家族交流会を実施した。(表 1-2-2)

さらに、ひきこもり相談を利用している本人を対象とした各種グループワークを実施した。(表 1-2-3)

(表 1-2-1) ひきこもり相談 相談形態別 (延べ件数)

電話(※)	来所相談	家庭訪問	所外	手紙	メール	合計
1,637	2,594	145	136	53	413	4,978 件

※内ひきこもり相談電話、48 件。

(表 1-2-2) ひきこもり家族教室・交流会 利用状況

内容	実施回数	利用者延数
家族教室 (コミュニケーション講座、当事者体験談、 家族体験談、ライフプランセミナー等)	17	158
家族交流会 (家族が交流し支えあう場)	6	50
合計	23 回	208 人

(表 1-2-3) ひきこもり本人向けグループワーク 利用状況

内容	実施回数	利用者延数
体験 (ボランティア等の体験をする)	7	33
講座形式 (さまざまな講義を聴く、映画鑑賞)	9	41
スポーツ (身体を動かす)	16	145
就労体験談 (就労している人の体験談を聴く)	3	29
女性 (女性限定グループ)	8	31
小グループ (少人数の活動)	5	35
緑化活動 (緑化センターでのボランティア活動)	6	31
サポーターミーティング (サポーター活動)	62	193
サポーター企画グループ (ピアサポーターによる企画)	34	297
合計	150 回	835 人

2) ユース・ピアサポーター活動

ひきこもりサポーター養成・派遣事業として、ひきこもり経験のある当事者を対象に「ユース・ピアサポーター養成講座」を実施し、講座修了者を各種ひきこもり支援事業に活用した。具体的にはひきこもり経験を生かした活動として、個別相談の補助、グループワークの企画、家族教室等での体験談の講師として活用した。

養成研修 6回 参加者延べ31人

ユース・ピアサポーター登録者 24名

活動回数 延べ321回

3) 教育研修、職員派遣

ひきこもり支援関係機関の職員を対象に、ひきこもり支援の技術を向上させることを目的

として研修を実施した。(表 1-2-4)

また、関係機関等の求めに応じ、研修会等に職員を派遣した。(表 1-2-5)

(表 1-2-4) ひきこもり支援者研修 実施実績

実施日	内容	講師	参加人数
8/23	ひきこもり支援者研修Ⅰ ひきこもり事例の見立てと 初期対応 ～背景にある精神疾患・ 発達障害に気づく～	当センター Dr、PHN、CP	48
12/6	ひきこもり支援者研修Ⅱ 大人の発達障害の理解と支 援 ～ひきこもり相談と就労 支援の連携～	当センター Dr、CP 堺市障害者就業・生活支援センター エマリス堺 大内 太郎 氏 公益財団法人浅香山病院 アンダンテ就労ステーション 谷奥 大地 氏	48
合計		2回	96人

(表 1-2-5) ひきこもりに係る主な職員派遣等 実績

実施日	内容	対象	派遣職員	参加人数
11/12	ひきこもりシンポジウム パ ネリスト	日本発達心理学会	CP	80
2/22	ひきこもりケース等の他機関	市職員	CP	17
2/27	との連携について	(南区生活援護課)		16
合計		3回		113人

※参加人数は、正確な値が分からなかった一部のものについて概数表示。

4) 普及啓発

ひきこもりで悩む本人や家族が孤立し、問題が長期化・重症化しないよう、市民に対する講演会を開催した。(表 1-2-6)

(表 1-2-6) ひきこもりに係る普及啓発 実施実績

実施日	内容	講師	参加人数
6/18	多様なひきこもりへの支援に ついて ～現代の若者と貧困～	一般社団法人 インクルージョンネットかながわ 代表理事 鈴木 晶子 氏	52
合計		1回	52人

5) その他（技術支援、会議参加等）

関係機関とのネットワークを構築し、ひきこもり支援を推進するため、各種の会議に積極的に参加して情報共有等を図ると共に、ひきこもり地域支援センターの専門性を生かした技術支援等を行った。（表 1-2-7）

その他、関係団体からの視察や見学等の受け入れ等を行った。

（表 1-2-7） ひきこもりに係る主な技術支援、会議参加等実績

事業種別等	実施主体等	内容等	回数
ひきこもり支援	ひきこもり地域支援センター連絡会議（事例検討会）	ひきこもりに関する事例検討会	9
ひきこもり支援	ひきこもり地域支援センター 全国連絡協議会	協議会への出席	2
子ども若者支援	子ども若者支援地域協議会 （子ども家庭課）	協議会への出席 代表者会議 実務者会議	1 5
合計		17回	

1-3 薬物依存症

1) 相談支援及びグループワーク等

覚せい剤、麻薬等の違法薬物や危険ドラッグ等の依存の問題で困っている本人及び家族等に対して相談支援を行った。個別の状況に応じた支援及び精神科医による相談（月 1 回程度）を実施した。（表 1-3-1）

また、薬物依存症で困っている家族を対象に、薬物問題の正しい理解とその対応について学ぶことを目的とした家族教室を実施した。（表 1-3-2）

さらに、薬物依存症相談の利用者を対象に、再発予防を目的としたグループワークを実施した。（表 1-3-3）

（表 1-3-1） 薬物依存症相談 主な相談対象薬物別（延べ件数）

覚せい剤	麻薬	大麻	有機溶剤	危険ドラッグ	処方薬	その他	合計
701	1	71	1	81	33	47	935 件

（表 1-3-2） 薬物依存症家族教室 利用状況

内容	実施回数	利用者延数
1 家族心理教育プログラム	16	159
2 薬物依存症に悩む人たちを支える人のワークショップ		
合計	16回	159人

(表 1-3-3) 薬物依存症グループワーク 利用状況

内容	実施回数	利用者延数
再発予防を目的とした集団活動	25	50
合計	25回	50人

2) 教育研修、職員派遣

依存症支援関係機関の職員を対象に、依存症支援の技術を向上させることを目的として研修を実施した。(表 1-3-4)

また、関係機関等の求めに応じ、研修会等に職員を派遣した。(表 1-3-5)

(表 1-3-4) 依存症支援者研修 実施実績

実施日	内容	講師	参加人数
1/31	いまこそ聞きたい「動機づけ面接」 ～変化を促す面接技法の習得に 向けたワークショップ～	北里大学医学部精神科学 澤山 透 氏	42
合計		1回	42人

(表 1-3-5) 薬物依存症に係る主な職員派遣実績

実施日	内容	対象	派遣職員	参加人数
7/20	薬物依存 ステップアッププログラム講師	大阪保護観察所 堺支部	CP、PHN	3
3/16	施設見学及び意見交換会	大阪刑務所	Dr	1
合計		2回	4人	

3) その他(技術支援、会議参加等)

関係機関とのネットワークを構築し、薬物依存症支援を推進するため、各種の会議に積極的に参加して情報共有等を図ると共に、当センターの専門性を生かした技術支援等を行った。

(表 1-3-6)

(表 1-3-6) 薬物依存症に係る主な技術支援、会議参加等実績

事業種別等	実施主体等	内容等	回数
薬物依存症支援	大阪府薬物依存症対策推進会議	会議への出席	3
薬物依存症支援	大阪アディクションセンター連携会議 等	会議への出席	4
薬物依存症支援	近畿地区薬物中毒対策連絡会議	会議への出席	1
薬物依存症支援	大阪府麻薬覚せい剤等対策本部 乱用依存症者対策部会	部会への出席	1

合計	9回
----	----

1-4 自死遺族

1) 相談支援等

大切な人を自殺で亡くした遺族等を対象に、個別の状況に応じた支援及び臨床心理士による心理カウンセリング（月2回程度）を実施した。

自死遺族相談実績（再掲） 実数27人（延べ131件）

うち臨床心理士による相談 21回、実数4人（延べ26件）

2) その他（技術支援、会議参加等）

関係機関とのネットワークを構築し、自死遺族支援を推進するため、各種の会議に積極的に参加して情報共有等を図ると共に、当センターの専門性を生かした技術支援等を行った。

（表1-4）

（表1-4） 自死に係る主な技術支援、会議参加等実績

事業種別等	実施主体等	内容等	回数
自殺対策	自殺対策に係る各種会議等（精神保健課）	連絡懇話会への出席	2
		庁内連絡会への出席	3
		事例検討会議への出席	10
		講演会への出席	1
自殺対策	街頭キャンペーン（精神保健課）	キャンペーンへの出務	2
合計		18回	

1-5 専門外来診療事業

公的医療機関として一般精神科では対応困難な症例について、特定外来診療を予約制で行った。（表1-5）

専門外来診療 実数8人（延べ12件）

（表1-5） 診断分類

自閉症スペクトラム障害	その他	合計
4	4	8人

1-6 こころの電話相談

こころの病に対する偏見は依然として強く、適切な精神科医療機関及び相談機関に関する情報は充分ではない状況に対して、電話の利便性の高さや匿名性を生かし、よりスムーズな

医療・相談機関等の情報提供を行うとともに、精神障害者の生活相談に即応することを目的として、電話相談を実施した。(表 1-6-1、表 1-6-2)

なお、平成 24 年 9 月より全国こころの健康統一ダイヤル(0570-064-556)に常時加入した。

専用回線(1回線)により、有資格者の電話相談員が土・日・祝日・年末年始を除く 9:00～12:30、13:30～17:00 に対応した。3 月(自殺対策強化月間)については、12:30～13:30 も対応した。

また、電話相談における困難事例への対応の検討及び相談技術の向上、社会資源の情報の更新等を目的に、電話相談員のフォローアップ研修及び交流会を実施した。

相談日 243 日

相談件数 2,502 件

(表 1-6-1) 相談内容別件数

老人 精神保健	社会 復帰	アルコール 依存	薬物依存	ギャンブル 依存	思春期	こころの 健康づくり	うつ	その他	合計
124	1,233	13	8	2	24	79	41	978	2,502 件

(表 1-6-2) 対応時間別件数

～15 分	15～30 分	30～60 分	60～120 分	120 分以上	その他	合計
842	729	584	131	2	214	2,502 件

2 教育研修事業

2-1 新任者研修

堺市内の精神保健福祉関係機関における実務経験が概ね1年未満の職員を対象に、精神障害に関する基礎的な知識と基本的な技術の習得を目的として研修を行った。なお、新たに、一部のコマで庁内職員の研修を兼ねることとし、且つ、その1コマである「精神疾患の基礎知識」はオープン研修として、同研修受講者以外も受講できるようにした。(表 2-1-1)

また、同研修受講者を対象に、フォローアップ研修を行った。(表 2-1-2)

(表 2-1-1) 新任者研修 実施実績

実施日	5/16～19 (1回、4日間) ※庁内職員研修：5/16、オープン研修：5/17
内容 (講師)	<ul style="list-style-type: none"> ・堺市の精神保健福祉の流れ (PSW) ※兼庁内職員研修 ・体験を通しての今まで・これから、ピアサポートについて (精神障害のある当事者) ・家族会活動と家族の思い (家族会) ・地域の支援者として思うこと (就労継続支援 B 型職員) ・精神疾患の基礎知識 (精神科医) ※兼オープン研修 ・精神保健福祉概論、堺市の障害者相談支援体制 (PSW) ・精神保健福祉の領域で用いる相談技法 (CP) ・見学実習、報告会 【実習先】サニーカフェ・サニーハウス、四季彩、 アンダンテ就労ステーション、当センター ・援助職のストレスケア (CP)
参加人数	【新任者研修】 21人 (延べ84人) 【庁内職員研修】 4人 【オープン研修】 34人

(表 2-1-2) 新任者フォローアップ研修 実施実績

実施日	1/30 (1回)
内容 (講師)	【1部】 事例検討 (PSW、CP、PHN) 【2部】 情報交換及び交流会
参加人数	13人

2-2 現任者研修

精神保健福祉関係機関の職員を対象に、精神障害者支援の技術を向上させることを目的として、研修を実施した。(表 2-2)

(表 2-2) 現任者研修 実施実績

実施日	内容	講師	参加人数
7/11	いまさら聞けない 「精神科入院制度」	当センター PSW	55
10/17	いまさら聞けない 「統合失調症 (第2弾)」	当センター Dr	30
11/29	訪問看護から学ぶ暮らしのサポート ～精神科医療との連携のコツ～	医療法人杏和会 訪問看護ス テーションふれあい 辻林 由紀子 氏	43
11/5	アルコール等依存症支援者研修 アルコール関連問題に出会ったら … ～アルコール依存症とその予備 軍の支援について～	医療法人和気会 新生会病院 和気 浩三 氏	46
合計		4回 174人	

※専門相談に係るものについては前掲 (ひきこもり 2回 96人、依存症 1回 42人)。

2-3 相談員研修

保健センターの精神保健福祉相談員 (採用 8 年目以下) を対象に、ケースワーク技術の向上、相談員間の情報共有と連携を図るため、事例検討研修を実施した。(表 2-3-1)

また、同精神保健福祉相談員 (採用 9 年目以上 15 年目以下) を対象に、中堅研修を実施した。(表 2-3-2)

(表 2-3-1) 相談員研修 (採用 8 年目以下) 実施実績

実施日	5/20、6/17、8/19、9/16、11/18、12/16、2/17、3/17 (8回)
内容	事例検討
参加者延数	67人

(表 2-3-2) 相談員研修 (採用 9 年目以上 15 年目以下) 実施実績

実施日	①4/15、②7/15、③10/21、④1/20 (4回)
内容	①フリーディスカッション (「新年度の全般状況」に関する検討) ②「成年後見制度 (市長申立て事務等)」に関する検討 ③「他課業務 (各々が経験したことのない業務)」に関する検討 ④「他課業務 (各々が経験したことのない業務)」に関する検討
参加者延数	31人

2-4 職員派遣

庁内関係各課、精神保健福祉関係機関や精神保健福祉に関心のある団体等の求めに応じ、研修会等に職員を派遣した。(表 2-4-1、表 2-4-2)

その他、専門学会の講座司会等に職員を派遣した。

(表 2-4-1) 主な職員派遣実績 (庁内)

実施日	内容	対象	派遣職員	参加人数
5/2	健康部業務新任者研修	健康部新任者	PSW	85
8/24	社会福祉実習生に係る研修	社会福祉実習生	PSW	12
1/12	周産期メンタルヘルスとアルコール	地域の助産師	Dr、PSW	70
2/3	保健師初級研修	採用後 1~3 年目の保健師	PHN	15
合計		4 回 182 人		

(表 2-4-2) 主な職員派遣実績 (庁外)

実施日	内容	対象	派遣職員	参加人数
11/19	市民後見人養成講座「対象者の理解(3)精神障害について」	市民後見人養成講座受講者	PSW	11
11/27	第 23 回関西アルコール関連問題学会 滋賀大会 シンポジスト	医療・保健・福祉機関及び団体並びに当事者団体並びに一般市民	Dr	321
1/15	堺市障がい者スポーツ指導者養成講習会 (初級)	障がい者スポーツ養成講習会	PSW	42
3/13	健康福祉プラザ見学に係る講師	須磨区民生委員児童委員協議会	PSW	16
合計		4 回 390 人		

※専門相談に係るものについては前掲 (ひきこもり 3 回 113 人、薬物依存症 2 回 4 人)。

※参加人数は、正確な値が分からなかった一部のものについて概数表示。

2-5 学生実習

医科大学生及び精神保健福祉士実習生について、受け入れの調整を行った。(表 2-5)

その他、社会福祉士実習生について、他部局で実施されるプログラムへの協力 (講師派遣等) を行った。

(表 2-5) 学生実習受入実績

学校名等	実習場所	受入人数
奈良県立医科大学	当センター等	6

大阪保健福祉専門学校	当センター及び北保健センター等	1
合計		7人

2-6 その他研修等

前記以外の研修として、当センター職員が受講した研修の伝達等を行った。(表 2-6)
 その他、関係機関や大学からの視察や見学等の受け入れ等を行った。

(表 2-6) その他研修 主な実施実績

実施日	内容	講師	参加者延数
9/29	伝達研修	当センター CP、PSW (2人)	33
3/1	伝達研修	当センター Dr、PSW (2人)、PHN	18
合計		2回	51人

3 普及啓発事業

3-1 アルコール等依存症者支援講演会

アルコール関連問題の一つであるアルコール依存症をはじめ、依存症全般への理解を深めるとともに、自らや家族の健康について見直す機会とすること及びハイリスク者を早期に支援につなげる機会とすることを目的として企画開催した。(表 3-1)

(表 3-1) アルコール等依存症者支援講演会実績

名称	堺市アルコール等依存症者支援講演会 ～みんなで考えよう、お酒のこと～
開催日	11/13
場所	堺市総合福祉会館 6階 大ホール
主催	堺市
協力	堺市断酒連合会
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコール健康障害対策基本法の概要と国の動き、堺市の取り組み（出前講座）のPR等 ・講演『回復可能な病気「アルコール依存症」 ～その症状・経過・治療について～』 あいメンタルクリニック 院長 高野 善博 氏 ・家族体験談
参加者	150人

3-2 精神保健福祉セミナー

広く市民に精神保健福祉に関する正しい知識の普及・啓発を行い、こころの健康についての関心を促すことによって、ノーマライゼーションの理念の実現を図り、こころ豊かなまちづくりを市民の側から進めるきっかけとすることを目的として企画開催した。企画・運営は、市内関係各機関で構成された実行委員会により実施した。(表 3-2)

(表 3-2) 精神保健福祉セミナー開催実績

名称	第23回堺市精神保健福祉セミナー 「こころの病 しゃべれる堺 ～人はいつだって変わる！～」
開催日	12/3
場所	堺市立健康福祉プラザ 1階 体育室
主催	堺市精神保健福祉セミナー実行委員会
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講演『人が回復するのに締め切りはありません！ ～当事者・家族・精神科医の三位一体の私から伝えたいこと』 やきつべの径診療所 児童精神科医 夏苺 郁子 氏 ・当事者等によるパネルディスカッション

	・作品展示
参加者	166人

3-3 ハッスル運動会（堺市精神障害者地域交流運動会）

堺市内の医療機関もしくは社会復帰施設等を利用する精神障害者やその家族、関係機関の職員及びボランティアを含めた市民等が相互に交流することにより、精神障害者への理解を深め、精神障害者の社会参加を促進するとともに、地域のネットワークづくりの構築を推進することを目的として開催した。（表 3-3）

（表 3-3） ハッスル運動会（堺市精神障害者地域交流運動会）開催実績

名称	第 28 回堺市精神障害者地域交流運動会
開催日	10/20
場所	J-GREEN 堺（堺市立サッカーナショナルトレーニングセンター） 屋根付フットサルコート
主催	堺市精神障害者地域交流運動会実行委員会
協力 （順不同）	大阪いずみ市民生活協同組合、(株)神戸屋堺工場、堺ヤクルト販売(株)、 東燃ゼネラルグループ労働組合堺支部、堺市健康づくり推進市民会議
参加者	527人（30 団体、メンバー：347人、スタッフ等：180人）

3-4 家族講演会

精神障害者の家族を対象に精神障害についての研修を行い、家族の不安を軽減するとともに、交流の機会を設け、孤立を防止することを目的として、精神障害者家族講演会を開催した。（表 3-4）

（表 3-4） 家族講演会実績

実施日	内容	講師	参加人数
6/4	オープンダイアログから学ぶ 「対話」の意味	大阪府立大学 准教授 三田 優子 氏	114
9/17	統合失調症と自閉症スペクトラム ～見分け方、対応の仕方～	京都大学医学部附属病院 精神科医 川岸 久也 氏	95
3/11	障がい者が地域で自分らしく生きていく為の支援 ～誰でも自分らしく生きていく権利がある～	社会福祉法人朋志美会 （しののめハウス） 理事長 菅野 治子 氏	75
合計		3回	284人

3-5 出前講座

「どこでもセミナー～堺市生涯学習まちづくり出前講座～」として、諸団体からの要請を受けて講師を派遣し、こころの健康づくりに関する知識の普及・啓発を行った。(表 3-5)

なお、『アルコール関連問題とメンタルヘルス ～不適切な飲酒がもたらすもの～』を新設した。

(表 3-5) 出前講座実績

内容	回数	参加者延数
こころの健康講座 ～ストレスと上手につきあうコツ～	9	190
簡単うつ病講座 ～身近なうつ病、気づいていますか？～	3	77
アルコール関連問題とメンタルヘルス ～不適切な飲酒がもたらすもの～	2	38
合計	14	305 人

3-6 啓発冊子の作成

精神的健康の増進、精神疾患に対する正しい知識の普及を目的として冊子を作成し、各区の保健センターへ配架した他、講演会、イベント等で配布した。(表 3-6)

(表 3-6) 啓発冊子発行実績

名称	発行部数
自死遺族相談のご案内	2,000
産後のこころの健康	1,000
堺市こころの健康センターのご案内	2,000
ひきこもり はじめてのヒント	3,000
ひきこもりからのリハビリ	4,000

3-7 ホームページ

精神障害者に対する支援制度、利用可能な資源、精神疾患に関する知識、研修会、講演会等の開催情報など、当センターのホームページに掲載した。

URL : <http://www.city.sakai.lg.jp/kenko/kenko/hokencenter/kenkocenter/index.html>

4 技術支援事業

4-1 保健センターへの技術支援

市内各区の保健センターに対して、技術支援（7回）を行った。

4-2 個別支援及び各種事業への技術支援等

関係機関とのネットワークを構築し、精神保健福祉を推進するため、各種の会議に積極的に参加して情報共有等を図ると共に、当センターの専門性を生かした技術支援等を行った。

（表 4-2-1、表 4-2-2、表 4-2-3）

（表 4-2-1） 個別支援に係る技術支援実績

事業種別等	実施主体等	内容等	回数
心神喪失者等医療観察	大阪保護観察所等	ケア会議への出席等	44
障害者虐待防止	障害施策推進課	虐待コア会議への出席等	38
障害者支援 （高次脳機能障害）	生活リハビリテーションセンター	面接への同席等	1
合計		83回	

※専門相談に係るものについては前掲（自死遺族 10回）。

（表 4-2-2） 各種事業協力（会議出席等）に係る技術支援（庁内）

事業種別等	実施主体等	内容等	回数
障害者支援	指定特定相談支援事業所等への技術支援等に関する会議 （障害施策推進課）	会議への出席	2
障害者支援 （地域移行）	退院促進支援会議等 （障害施策推進課）	会議への出席	9
障害者支援	障害者施策推進協議会幹事会 （障害施策推進課）	会議への出席	1
障害者支援 （日常生活用具）	日常生活用具給付事業品目等 検討庁内委員会 （障害者支援課）	会議への参加	1
障害者支援	障害者施策推進協議会 発達障害者支援専門部会 （子ども家庭課）	会議への出席	1
精神保健福祉	精神保健福祉業務連絡調整会議 （精神保健課）	会議への出席等	11
精神保健福祉	精神科病院実地指導等 （精神保健課）	実地指導立会い等 その他	5 7

高齢者支援	認知症地域包括ケアシステム 推進会議（高齢施策推進課）	会議への出席	1
生活困窮者自立支援	生活困窮者自立支援制度連携 会議（生活援護管理課）	会議への出席	1
健康さかい21	健康さかい21 庁内連絡会 （健康医療推進課）	連絡会への出席	1
健康増進	健康増進計画懇話会 （健康医療推進課）	懇話会への出席	1
保健師業務	保健師成人係長会議 （健康医療推進課）	会議への出席	1
保健師業務	保健師業務調整会議 （健康医療推進課）	会議への出席	9
災害時支援	DPAT等（災害時のこころのケ ア）に関する検討会議 （精神保健課）	会議への出席	7
犯罪被害者等支援	犯罪被害者等支援庁内連携事 務担当者会議（市民協働課）	会議への出席	1
合計		59回	

※専門相談に係るものについては前掲（ひきこもり15回、自死遺族8回）。

（表 4-2-3） 各種事業協力（会議出席等）に係る技術支援（庁外）

事業種別等	実施主体等	内容等	回数
心神喪失者等医療観察	医療観察制度運営連絡協議会	協議会への出席	1
	業務連絡会（大阪保護観察所）	連絡会への出席	2
	意見交換会（厚生労働省）	意見交換会への出席	1
権利擁護支援	日常生活自立支援事業契約締 結審査会 （堺市社会福祉協議会）	審査会への出席	5
障害者支援 （自立支援協議会）	堺市障害者自立支援協議会	市協議会への出席等 専門部会への出席等 区協議会への出席等	2 1 34
障害者支援 （就労支援）	就業・生活支援センター連絡会 （就業・生活支援センター）	連絡会議への出席	2
障害者支援 （発達障害者）	発達障害者支援センター連絡 協議会 （発達障害者支援センター）	協議会への出席	1
産業保健	産業保健活動推進協議会 堺地域産業保健センター運営 協議会（堺労働基準監督署）	会議への出席	1
保健医療計画	第2回大阪府保健医療計画 精神疾患ワーキンググループ	専門部会への出席	1
認知症	認知症医療マニュアル等検討会	検討会への出席	1
精神保健福祉	精神科医療機関療養環境検討 協議会	協議会への出席	6

合計	58回
----	-----

※専門相談に係るものについては前掲（ひきこもり2回、薬物依存症9回）。

5 組織育成事業

市民の精神保健福祉の向上を図るために、地域住民による組織活動等に対して支援を行った。(表5)

(表5) 組織育成事業 主な実績

対象	内容	回数
当事者会	講師派遣	1
家族会	会合出席等	1
医療機関等(各協会等)	会合出席等	9
断酒会	会合出席、講師派遣等	9
その他	その他	2
合計		22回

6 精神医療審査会・自立支援医療（精神通院医療）及び精神障害者保健福祉手帳の判定

6-1 精神医療審査会

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に基づき、精神医療審査会を設置して審査等を行った。（表 6-1-1、表 6-1-2、表 6-1-3）

なお、合議体は 3 合議体で、合計 35 回（A 合議体 12 回、B 合議体 12 回、C 合議体 11 回）開催した。また、審査会（全体会）を、1 回開催した。

その他、全国精神医療審査会連絡協議会等に参加した。

（表 6-1-1） 審査委員内訳

精神保健指定医	弁護士	学識経験者	合計
8	3	4	15 人

（表 6-1-2） 退院・処遇改善請求審査

請求等 区分	入院形態	請求件数	審査件数	審査結果件数	
				入院又は処遇は 適当	入院又は処遇は 不適当
退院請求	医療保護	48	30	27	3
	措置入院	4	2	1	1
	その他	0	0	0	0
合計		52 件	32 件	28 件	4 件
処遇改善 請求	任意入院	0	0	0	0
	医療保護	7	4	2	2
	措置入院	4	1	0	1
	その他	0	0	0	0
合計		11 件	5 件	2 件	3 件

※衛生行政報告例の集計方法に基づく。

※請求電話受電等件数は、705 件。

(表 6-1-3) 入院届・定期病状報告審査

請求等区分		審査件数	審査結果件数		
			現在の入院 形態が適当	他の入院 形態への 移行が適当	入院継続不要
医療保護入院届		2,706	2,705	0	1
定期病状 報告	医療保護入院	860	858	0	2
	措置入院	8	8	0	0
合計		3,574 件	3,571 件	0 件	3 件

※衛生行政報告例の集計方法に基づく。

6-2 自立支援医療（精神通院医療）及び精神障害者保健福祉手帳の判定

1) 自立支援医療(精神通院)支給判定業務

自立支援医療(精神通院)の申請に係る診断書の判定業務を行った。(表 6-2-1)

(表 6-2-1) 自立支援医療（精神通院）判定件数

判定	件数
承認	6,361
不承認	7
合計	6,368 件

2) 精神障害者保健福祉手帳判定業務

精神障害者保健福祉手帳の申請に係る診断書の判定業務を行った。(表 6-2-2)

(表 6-2-2) 精神障害者保健福祉手帳判定件数

判定	件数
承認	2,922
不承認	24
合計	2,946 件

7 調査研究事業

7-1 紀要

当センター研究紀要（第9号）を発行した。（表7-1）

（表7-1） 紀要（第9号）掲載論文

論題
障害者虐待防止に対する技術支援
抑うつ症状とその要因に関する検討 —堺市における自殺対策に関する市民アンケートから—
堺市こころの健康センターにおける精神保健福祉援助職への研修 —これまでの取り組みとこれからの展望—
堺市こころの健康センターにおけるひきこもり相談事例の背景の分析 —3年間（平成25～27年度）の受理事例について—

7-2 その他発表等

前記以外の調査研究として、活動報告の発表等を行った。（表7-2）

（表7-2） 研究発表等 実績

実施日	学会・雑誌等	内容	職員
10/26	平成28年度全国精神保健福祉センター長会 第52回全国精神保健福祉センター研究協議会	ひきこもり相談に求められる専門的役割について —来談経緯に含まれる3つの現実課題—	CP
10/28	第75回日本公衆衛生学会総会報告	ひきこもり当事者によるピア活動を目的としたひきこもりサポーター養成派遣事業	CP
	精神科, 28巻第4号: 356 - 362, 2016, 科学評論社	堺市こころの健康センターにおける薬物依存症相談について —刑法改正を見据えて—	Dr 等
	実践成年後見 No. 63: 104-110, 2016, 民事法研究会	社会福祉的観点からみた障害者虐待の防止・被害救済と後見実務 —堺市における障害者虐待への取り組み—	PSW
	臨床精神医学, 第45巻 第9号: 1197-1205, 2016, アークメディア	ひきこもりの個別相談段階から集団支援段階へ繋げる方法 —グループワークの企画方法と効果—	CP 等
合計		5回	

堺市こころの健康センター所報 第11号（平成28年度実績）

編集・発行 堺市健康福祉局健康部こころの健康センター

〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4丁3番1号

堺市立健康福祉プラザ3階

TEL 072-245-9192 FAX 072-241-0005

E-mail kokense@city.sakai.lg.jp